

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟県立大学
設置者名	公立大学法人新潟県立大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
国際地域学部	国際地域学科	夜・通信			30	30	13	
		夜・通信						
人間生活学部	子ども学科	夜・通信			17	17	13	
	健康栄養学科	夜・通信			14	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/syllabus/>
 学科別一覧表示欄のチェック欄にチェックを入れ、学科名のボタンをクリックすると実務経験のある教員の科目が抽出される。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟県立大学
設置者名	公立大学法人新潟県立大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.unii.ac.jp/overview/organization-management/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前町長	2019.4.1～ 2021.3.31	法人運営に関する チェック機能
非常勤	前会社役員	2019.4.1～ 2021.3.31	法人運営に関する チェック機能
非常勤	前大学副総長・常任理事	2019.4.1～ 2021.3.31	法人運営に関する チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟県立大学
設置者名	公立大学法人新潟県立大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>				
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○授業計画書(シラバス)の作成過程</p> <p>10月～11月 シラバス記載項目の確認 1月 シラバス執筆依頼 2月末まで シラバス執筆期間 3月末まで 事務局において公開準備 4月初め シラバス公開</p> <p>ホームページにおいてシラバスを公開している。</p>				
授業計画書の公表方法	http://penguin.unii.ac.jp/Syllabus/			
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>				
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>○成績評価基準</p> <p>教育の質を保証する観点から、国際的に通用し、公平性・透明性に優れた基準であるグレードポイント(GP)を全学的に導入している。</p>				
成績評価		成績	合否	GP
A	秀	90点以上	合格	4.0
B	優	80点以上 90点未満		3.0
C	良	70点以上 80点未満		2.0
D	可	60点以上 70点未満		1.0
F	不可	60点未満	不合格	0
X	資格喪失	受験資格の喪失(出席数不足等)		0
T	認定	認定単位(他大学等の単位互換科目)	合格	算定対象外
<p>授業科目を履修した者に対して、シラバスに記載した担当教員の授業方針・評価方法に基づき、平素の学修状況、試験、レポート、発表、討議により目標達成率を評価し、GPによって客観的に示す。</p>				

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 教育の質を保証する観点から、国際的に通用し、公平性・透明性に優れた Grade Point Average 制度 (GPA) を全学的に導入している。</p> <p>○GPA 算出方法 GPA=(履修した授業科目の単位数×GP)の合計/履修単位数の合計 学期が終わると全学生の GPA を確認し分布状況を把握するとともに、成績通知書を保証人あて通知する。また、GPA の低かった学生に対して、学修指導を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧 P102～103 https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/evaluation-standard/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 国際地域学部では、「国際」と「地域」の視点から教育・研究を行い、国際的に活躍でき、地域のグローバル化に対応して地域づくりを担う人材を育成する。また、人間生活学部では、「人間」と「生活」の視点から教育・研究を行い、少子高齢化がすすむ地域社会に対応し、魅力ある地域社会を実現することができる人材を育成する。 この目標を達成するために、それぞれの学部における教育理念や目的に沿った指導を受け、所定の期間在学して所定の単位を修得した学生に学位を授与する。また、全ての学生が(知識・理解)(技能)(実践的姿勢)(統合的な学習経験と創造的思考力)の領域で以下の具体的な学修成果を修めることを目指す。</p> <p>知識・理解 (1) 文化、社会、または、自然に関する知識を獲得し、理解する。 (2) 新潟県の文化的または社会的な特徴を理解する。 (3) 専攻する学問分野における知識を体系的に獲得し、理解する。</p> <p>基本的技能・態度 (1) 健全で豊かな社会生活を行うための素養・態度を身につける。 (2) 他者と協働して活動できる素養・態度を身につける。 (3) 専門的分野の活動に必要な技能・態度を身につける。</p> <p>コミュニケーション能力 (1) 行った活動の成果を適切に表現できる。 (2) 他者が表現した内容について適切に評価し、建設的に意見を交換できる。 (3) 外国語でも情報収集・表現・意見交換できる。</p> <p>総合的活用力 知識や情報、技能などを総合的に活用し、専門分野の活動に活かすことができる。</p> <p>卒業認定方法 各学科の教務委員が卒業に必要な単位を修得しているか確認し、卒業判定に必要な資料を作成する。その資料をもとに、学科会議、教授会で卒業判定を行い、学長の承認をもって卒業の認定となる。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.unii.ac.jp/overview/policy/diploma-policy/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟県立大学
設置者名	公立大学法人新潟県立大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/
収支計算書又は損益計算書	https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/
財産目録	—
事業報告書	https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/
監事による監査報告(書)	https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:年度計画)	対象年度:令和元年度)
公表方法: https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/	
中長期計画(名称:中期計画)	対象年度:平成27年度~令和2年度)
公表方法: https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.unii.ac.jp/overview/public/legal/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際地域学部国際地域学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/purpose/system/)
(概要) 今日の知識や情報の量が飛躍的に増え、急速に変化する現代社会では、社会の変化に主体的に対応できる幅広い視野と総合的な判断力、豊かな創造性を兼ね備えた人材が求められている。このような社会的要請に応えるため、国際地域学部は、知識・技能・態度を総合的に活かし、知的な行動力でグローバルそしてローカルなコミュニティーに貢献できる人材を育成することを目標とする。 地方都市である新潟県の地域性を考慮し、具体的には以下の人材を育成する。 ・グローバルな社会で活躍するため、読み、書き、聞き、話すことができる日本語と英語のコミュニケーションスキルを有し、我が国の文化を世界へ発信することができる人材 ・豊かな人間性に裏打ちされた専門知識と技能を身につけ、専門学問領域を体系的に理解し、地域社会に貢献できる行動力のある人材 ・多様化・複雑化した現代社会の変化に対応でき、総合的に調整できる能力を持つ人材 ・グローバル化による国際社会の変容を政治、経済、文化、地球・地域環境の観点から総合的に考察でき、情報の収集や交渉、調整する行動力と課題について深く物事を考え抜く力をもって、地域づくりに貢献できる人材
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.unii.ac.jp/overview/policy/diploma-policy/)
(概要) 国際地域学部では、国際的に活躍でき、地域のグローバル化に対応して地域づくりを担う人材を育成することを目指す。そのため、「国際研究」と「地域研究」を融合した「国際地域学」を探究し、グローバルな視野をもってローカルな課題に取り組む学生を育てる。 所定の単位を修得し、以下に示す 4 つの「知・力」を身に付けた者に、学士(国際地域学)を授与する。 知識・理解 1 文化、社会、自然などに関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。 2 新潟県の特徴に関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。 3 (1) 国際地域学を学ぶための基礎となる知識を獲得し、理解する。 (2) 国際地域学の研究に必要な専門知識を獲得し、理解する。 基本的技能・態度 1 文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などの体験・学習を通して、自らの社会生活を豊かにするための素養・態度を養う。 2 グループの一員として主体的・強制的に課題に取り組む態度を身につける。 3 国際地域学に関連する学問的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析する能力を身につける。

コミュニケーション能力

1 国際地域学に関連する知識や情報の収集・整理・分析の過程や結果をまとめてスライドや資料、レポート、論文などにまとめ、論理的に解りやすく表現する能力を身につける。

2 国際地域学に関連してまとめられたスライドや資料、レポート、論文などの内容について意見を交換し、互いに内容の理解を深め、改善に役立つ意見を交換する能力や態度を養う。

3 外国語での会話や、資料の読解、文章表現を行う基礎的・発展的な能力を身につける。

総合的活用力

国際地域学に関連する知識や理解、基本的技能、コミュニケーション能力を総合的に活用して研究が行える能力を身につける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.u-nii.ac.jp/overview/policy/curriculum-policy/>)

(概要)

国際地域学部のカリキュラムは、国際性の涵養、地域性の重視、人間性の涵養という新潟県立大学の理念に基づいて設定された基盤科目と、学部、学科の目的に基づいて設定された展開科目及び卒業研究からなる。

1 高い語学活用能力を育む外国語科目・海外研修科目

高い語学活用能力を育むため、基盤科目の外国語科目群に、グローバルな環境で英語が使える学生の育成を目標とする英語教育プログラム「ACE (Academic Communicative English)」、ロシア語・中国語・韓国語を導入し教養的に学ぶ「東アジアの言語」、海外英語研修や海外実地研修を含む「海外研修」の科目群を配置し、展開科目の東アジアコース科目にロシア語・中国語・韓国語を集中的に学ぶための外国語科目と研修科目を配置する。

2 グローバルな視野と豊かな教養を身に付ける基盤科目

基盤科目には、「外国語」科目群のほかに、アカデミック・リテラシー、情報リテラシーや体育などからなる「基本技能」、現代人に必要な豊かな教養を身につける「現代教養」の科目群からなっている。「現代教養」は「国際学」「新潟学」「歴史と文化」「人間社会と科学」の科目群からなり、グローバルな視野を持って新潟の課題を考え、人間や社会・科学について理解を深め、主体的に行動できる資質・能力を培う。

3 学問基盤と学際的視野を持ち国際貢献・地域貢献ができる人材を育む展開科目

展開科目は学部共通の科目とコース科目からなっている。学部共通の科目は、国際地域学部の共通のベースをつくり、人文・社会・自然科学の諸分野にわたる各コースへのつなぎとなる科目で、「導入科目」「共通基幹科目」「特殊講義」「フィールドワーク」がある。1年終了時に2年次から所属するコースを一つ選択し、2年次以降は学部共通に学んだ基礎の上に、以下のそれぞれのコースの教育目標に沿って専門的科目を学修する。

- ・国際社会コース：政治・経済の視点から現代社会が直面する諸課題を検討し、国際社会の平和と発展のために貢献できる人材を育成する。

- ・比較文化コース：文化・言語の面から地域の国際化や国際交流に貢献できる人材を育成する。

- ・東アジアコース：新潟県と交流の深いロシア、中国、韓国との国際交流の中核とな

る人材を育成する。

・地域環境コース：地域の生活とまちづくり、環境問題について学修し、地域の再生に寄与する人材を育成する。

学修・研究成果のまとめとして卒業研究を行う。

さらに、「国際」と「地域」に関わる専門的学修を基礎に、中等教育の教員としての十分な知識・技能と高い語学能力をもつ教員を育てるため、中学校・高等学校教諭（英語）一種免許状を取得できる科目を設置する。

国際地域学部のディプロマポリシーで設定した身につけるべき4つの「知・力」を獲得できるように、下記の方針によってカリキュラムを設定する。

知識・理解

- 1 基盤科目に文化、社会、または自然に関する幅広い分野の科目を配置する。
- 2 新潟学に新潟県の特徴に関する幅広い分野の科目を配置する。
- 3 （1）展開科目に国際地域学を学修するための基礎となる学部共通の科目を配置する。
（2）展開科目にコースごとの教育目標に沿って学修する専門的科目をコース科目として配置する。

基本的技能・態度

- 1 基盤科目に文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などについて体験、学習できる科目を配置する。
- 2 （1）基盤科目と展開科目にグループや集団で課題解決に取り組む科目を配置する。
（2）基盤科目と展開科目に学外で社会の一員として行動する海外研修やフィールドワークなどの実習科目を配置する。
- 3 基盤科目に情報収集や分析の基礎となる科目を選択できるように配置し、展開科目に国際地域学に関連する学術的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析するための演習や実習を含む科目を配置する。

コミュニケーション能力

- 1 基盤科目に情報の収集、整理、分析、発信に必要な基本的技能を習得できる科目を選択できるように配置し、展開科目に学修の成果をスライドや資料、レポート、論文などにまとめて発表する科目を配置する。
- 2 基盤科目と展開科目に、スライドや資料、レポート、論文などの内容をディスカッションし、学修の成果や理解を互いにブラッシュアップする科目を配置する。
- 3 基盤科目と展開科目に外国語科目を配置し、展開科目に英語で国際地域学について専門的に学ぶ科目を配置する。

総合的活用力

国際地域学に関連する知識や理解、基本的技能・態度、コミュニケーション能力を総合的に活用して研究を行い、発表・討論する科目として、卒業研究を配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/admission-policy/)</p>
<p>国際地域学科が求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の高いスキルを習得しようという意欲とそのため基礎的な力を持つ人 ・政治・経済の視点から現代世界が直面する諸課題について学修し、国際社会の平和と発展に貢献したい人 ・ロシア・中国・韓国の言語・文化・社会について学修し、東アジア諸国を中心とした交流の創出・推進に貢献したい人 ・異なる文化や言語について比較研究を行い、地域の国際化や国際交流に貢献したい人 ・地域の暮らしや文化、環境について学修し、地域の文化創成・情報発信に寄与したい人 ・留学、ボランティア、国際交流などに積極的に参加したい人 ・豊かな海外経験を生かして、キャンパスや地域における多言語・多文化社会の構築に参画したい人 ・中学校・高等学校教諭一種免許（英語）を取得して教員になることを目指す人 <p>大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の教育課程に基づき学修して得た「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」 ・英語4技能「読む・書く・話す・聞く」をバランスよく習得していること。入学時にCEFR（ヨーロッパ共通参照枠）B1レベル（「自立した言語使用者」のレベル。英検2級程度）以上の英語運用能力を有していること。

<p>学部等名 人間生活学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/purpose/system/）</p>
<p>（概要）</p> <p>人間生活学部では、育と食を中心に豊かなヒューマンライフを創造し、地域社会の発展に貢献できる高度専門職業人を育成するために子ども学科と健康栄養学科からなる。</p> <p>子ども学科では、深い人間理解に基づいた人間的知恵と幅広い教養、高度な専門的知識を持って人間形成の最も重要な乳幼児期の保育の現場で中核として活躍できる人材の育成を目指すとともに、地域における子育て支援などの子どもの育ちと福祉に貢献できる人材を育成する。</p> <p>健康栄養学科では、生活習慣病が増加する中で、食育指導や疾病予防、高齢者等への栄養指導について、高度化・複雑化する現状に適切に対応できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.unii.ac.jp/overview/policy/diploma-policy/)</p>
<p>（概要）</p> <p>子ども学科</p> <p>社会の「対人支援」の多様な分野で中核となるスペシャリストを育成する。子ども学科では、子ども・家庭・地域支援のスペシャリスト育成を目指し、地域で暮らす人のウェルビーイングに貢献し、地域の抱える問題に対応する専門的知見を深く探究する。</p> <p>具体的には、全学ディプロマポリシーを踏まえ、以下に示す4つの知・力の育成を目指し、そのような資質・能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に、学士（ども学）を授与する。</p>

知識・理解

- 1 文化、社会、自然などに関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。
- 2 新潟県の特徴に関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。
- 3 (1) 教育・保育・福祉を学ぶための基礎となる知識を獲得し、理解する。
(2) 教育・保育・福祉の専門家として活動するために必要な専門的知識を獲得し、理解する。

基本的技能・態度

- 1 文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などの体験・学習を通して、自らの社会生活を豊かにするための素養・態度を養う。
- 2 (1) グループの一員として主体的・協動的に課題に取り組む態度を身に付ける。
(2) 社会の中でルールや規範を尊重して活動する素養や態度を身に付ける。
- 3 教育・保育・福祉に関連する学問的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析・活用する能力を身につける。

コミュニケーション能力

- 1 教育・保育・福祉に関連する知識や情報の収集・整理・分析の過程や結果をまとめてスライドや資料、レポート、論文などにまとめ、論理的に解りやすく表現する能力を身につける。
- 2 教育・保育・福祉に関連してまとめられたスライドや資料、レポート、論文などの内容について意見を交換し、互いに内容の理解を深め、改善に役立つ意見を交換する能力や態度を養う。
- 3 外国語での会話や、資料の読解、文章表現を行う基礎的な能力を身につける。

総合的活用力

教育・保育・福祉に関連する知識や理解、基本的技能、コミュニケーション能力を総合的・実践的に研究・活用できる。

健康栄養学科

食事指導や疾病予防、高齢者等への栄養指導について、国際化、高度化、複雑化する現状に適切に対応でき、総合的な食育活動の中核を担える資質・能力及び健康をサポートできる食の専門家としての資質・能力を身につけるために所定の単位を修得し、4つの知・力を身につけた者に、学士（栄養学）を授与する。

知識・理解

- 1 文化、社会、自然などに関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。
- 2 新潟県の特徴に関して各自が選択した分野の知識を獲得し、理解する。
- 3 (1) 栄養学を学ぶための基礎となる知識を獲得し、理解する。
(2) 栄養学の専門家として活動するために必要な専門知識を獲得し、理解する。

基本的技能

- 1 文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などの体験・学習を通して、自らの社会生活を豊かにするための素養・態度を養う。
- 2 (1) グループの一員として主体的・協動的に課題に取り組む態度を身につける。
(2) 社会の中でルールや規範を尊重して活動する素養や態度を身につける。
- 3 栄養学に関連する学問的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析し、活動に活かす能力を身につける。

コミュニケーション能力

1 栄養学に関連する知識や情報の収集・整理・分析の過程や結果をまとめてスライドや資料、レポート、論文などにまとめ、論理的に解りやすく表現する能力を身につける。

2 栄養学に関連してまとめられたスライドや資料、レポート、論文などの内容について意見を交換し、互いに内容の理解を深め、改善に役立つ意見を交換する能力を養う。

3 外国語での会話や、資料の読解、文章表現を行う基礎的な能力を身につける。

総合的活用力

栄養学に関連する知識や理解、基本的技能、コミュニケーション能力を総合的に活かし、実践的な活動や研究が行える。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.unii.ac.jp/overview/policy/curriculum-policy/>)

(概要)

人間生活学部では、グローバル化が進む地域の中で、「育」と「食」を中心に持続的な地域社会の発展と共生社会の実現に貢献できる人材を育成することを目指す。そのため、人間生活学部のカリキュラムは、国際性の涵養、地域性の重視、人間性の涵養という新潟県立大学の理念に基づいて設置された基盤科目と、学部・学科の目的に基づいて編成された展開科目及び卒業研究からなる。展開科目は、学部共通科目と各学科の専門科目から編成される。

1 グローバルな視野と豊かな教養を身につける基盤科目

基盤科目は、国際共通語である英語の活用能力を身につける「外国語」、情報リテラシーや体育などからなる「基本技能」、現代人として必要な豊かな教養を身につける「現代教養」からなる。「外国語」の中には海外英語研修や海外実地研修も用意する。「現代教養」は「新潟学」「国際学」「人間社会理解」の科目群からなり、グローバルな視野をもって新潟の課題を考え、人間や社会についての理解を深め、主体的に行動できる資質・能力を培う。

2 学部が目指す人間として必要な基本的知識を学ぶ学部共通科目

学部共通科目では、人間生活学概論をはじめ、豊かなヒューマンライフを創造するための基本を学ぶ。同時に、人間の心理、生活と福祉、食や健康などに関する科目を学ぶことによって、学部が目指す人間としての基本的知識を身につける。子ども学科の学生は健康栄養科目群から学ぶことによって、食生活や健康などについて基本的知識を持つ子ども・家庭・地域支援のスペシャリスト育成を目指す。健康栄養学科の学生は子ども科目群から学ぶことによって、教育・保育・福祉について基本的知識を身につけた栄養学の専門家の養成を目指す。

3 各学科の理念や目的に基づいて設置された専門科目

各学科の専門科目は免許・資格の取得を十分考慮し、それぞれの学科のディプロマポリシーに基づいて設置されている。「育」をキーワードとする子ども学科では、幼稚園教諭の免許、保育士の資格、社会福祉士の資格の取得を可能とする科目を設置する。「食」をキーワードとする健康栄養学科では、管理栄養士の資格を取得するための科目を必修とし、さらに栄養教諭一種免許状を取得できる科目を設置する。

子ども学科

子ども・家庭・地域を取り巻く「垣根のない課題」に対応できるよう、「対人支援」に関する専門分野・科目を体系的に配置し、専門的知識の修得と探究を目指します。

「対人支援」という枠組みでの学問の体系化を図り、学術的知識に基づいてこれらの課題に取り組むことによって、子どもを育み、人や地域を支える「スペシャリスト」の育成を図る。学科のディプロマポリシーに則ったカリキュラムポリシーを以下に示し、また設置科目において修得が望まれる「知・力」を明記する。

知識・理解

- 1 基盤科目に文化、社会、または自然に関する幅広い分野の科目を配置する。
- 2 新潟学に新潟県の特徴に関する幅広い分野の科目を配置する。
- 3 (1) 展開科目に「人間生活」全般を学修するための基礎となる学部共通の科目を配置する。
(2) 展開科目・教育・保育・福祉を学修するための専門的知識を得る科目を配置する。

基本的技能・態度

- 1 基盤科目に、文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などについて体験・学習できる科目を配置する。
- 2 (1) 展開科目にグループや集団で課題解決に取り組む科目を配置する。
(2) 基盤科目と展開科目に学外で社会の一員として行動する実習科目を配置する。
- 3 基盤科目に情報収集、整理の基礎となる科目を選択できるように配置し、展開科目に教育・保育・福祉に関連する学術的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・活用するための演習や実験・実習を含む科目を配置する。

コミュニケーション能力

- 1 基盤科目には情報発信に必要な基本的技能を修得する科目を選択できるように配置し、展開科目に演習・実習の過程や結果をスライドや資料、レポート、論文などにまとめて発表する科目を配置する。
- 2 展開科目に、スライドや資料、レポート、論文などの内容について発表された内容をディスカッションし、成果や理解を互いにブラッシュアップする科目を配置する。
- 3 基盤科目に外国語の科目を配置し、展開科目に英語で教育・保育・福祉に関する情報収集やコミュニケーションを行う科目を配置する。

総合的活用力

教育・保育・福祉に関連する知識や理解、基本的技能・態度、コミュニケーション能力を総合的に活用して研究を行い、発表・討論する科目として、卒業研究を配置する。

健康栄養学科

深い人間理解と生活関連分野を含む幅広い教養に基づき、栄養、食環境をめぐる国際化・高度化・複雑化する現状と社会的ニーズに適切に対応できる総合的な「食」の専門家を養成することを基本理念とし、身につけるべき4つの知・力を獲得できるように、下記の方針によってカリキュラムを設定する。なお、管理栄養士養成課程として必要な科目は全て必須として配置する。

知識・理解

- 1 基盤科目に文化、社会、または自然に関する幅広い分野の科目を配置する。
- 2 新潟学に新潟県の特徴に関する幅広い分野の科目を配置する。
- 3 (1) 展開科目に「人間生活」全般を学修するための基礎となる学部共通の科目を配置する。
(2) 展開科目・専門基礎分野に栄養学を学修するための基礎知識を得る科目を配置する。

(3) 展開科目・専門分野に、栄養学や給食経営管理学に関する専門的知識を得る科目を配置する。

基本的技能・態度

1 基盤科目に、文学や芸術、体育、社会貢献活動、異文化交流などについて体験・学習できる科目を配置する。

2 基盤科目と展開科目に学外で社会の一員として行動する実習科目を配置し、展開科目にグループや集団で課題解決に取り組む科目を配置する。

3 (1) 基盤科目に情報収集や分析の基礎となる科目を選択できるように配置し、展開科目に栄養学に関連する学術的・実践的課題の解決に必要な知識や情報を収集・整理・分析するための演習や実験・実習を含む科目を配置する。

(2) 展開科目に、実験や研究、実践活動に必要な技術を修得する科目を配置する。

コミュニケーション能力

1 基盤科目には情報発信に必要な基本的技能を修得する科目を選択できるように配置し、展開科目に演習・実験・実習の過程や結果をスライドや資料、レポート、論文などにまとめて発表する科目を配置する。

2 展開科目に、スライドや資料、レポート、論文などの内容について発表された内容をディスカッションし、成果や理解を互いにブラッシュアップする科目を配置する。

3 基盤科目に外国語の科目を配置し、展開科目に英語で栄養学に関する情報収集やコミュニケーションを行う科目を配置する。

総合的活用力

展開科目に、栄養学に関連する知識や理解、基本的技能・態度、コミュニケーション能力を総合的に活用する科目を配置するとともに、研究を行って発表、討論する科目として卒業研修を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.unii.ac.jp/overview/policy/admission-policy/>)

(概要)

子ども学科

人間に対する深い理解に基づき、その発達、その援助に関して科学的に探究し、実践的・専門的力量を持つ人材の育成を目指す。また、教育の根幹はヒューマン・リレーションにあると考え、教員と学生との人間的交流を大切にしながら、きめ細かな教育を行う。

子ども学科が求める学生像

- ・乳幼児期の子どもの育ちに関心を持ち、その教育・保育に携わりたい人
- ・子どもや家庭、地域社会の課題に関心を持ち、その解決に携わりたい人
- ・福祉の専門職として、地域や社会に貢献したい人
- ・他者の考え、気持ちを理解しようとする人

大学入学までに身につけておくことが望ましい知識・能力・態度

- ・文化や歴史、社会問題に関する基本的な知識
- ・問題の解決に取り組む姿勢と問題を総合的に分析し的確に判断できる力
- ・様々な人とのコミュニケーションの基礎となる語学力と自分の考えを自分の言葉で表現しようとする姿勢

<p>健康栄養学科</p> <p>生命の尊厳を知り・守るための食育、科学的根拠に基づく栄養・食生活の指導による健康の維持・改善、安全で健康的な食生活の支援によって地域・社会に貢献する人材養成を目指した教育を行う。</p> <p>健康栄養学科が求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊厳を知り、高い倫理観を有している人 ・食が生命を育み、人を育てる根源であることに興味を持っている人 ・栄養に関する専門知識と技術を主体的に身につけ、人々の健康に貢献したいという意欲を持つ人 ・栄養・食生活の指導に求められるコミュニケーション能力をもっている人 ・管理栄養士の資格取得を目指す人 <p>大学入学までに身につけておくことが望ましい知識・能力・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養学の基礎となる関連科目の基礎的な知識 ・「読解力」、「論理的思考力」、「文章表現力」 ・健康の維持・改善及び安全で健康的な食生活の支援に必要な技能やコミュニケーション能力の向上に、主体的・強制的に取り組む態度

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法</p> <p>https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/teachers/organization-number/</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
国際地域学部国際地域学科	1人	20人	16人	1人	人	人	38人
人間生活学部子ども学科		6人	4人	3人			13人
健康栄養学科	1人	5人	3人	2人	3人	2人	16人
政策研究センター		2人					2人
国際産業経済研究センター		4人	1人				5人
情報基盤センター					1人		1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
人		118人				118人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法 https://www.unii.ac.jp/education-research/database/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
全学的な委員会としてFD委員会を設置し、授業評価アンケート、FD研修会等を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入 学者数
国際地域学部	180人	180人	100%	720人	813人	112.9%		
人間生活学部	80人	81人	101.3%	320人	323人	100.9%		
合計	260人	261人	100.4%	1,040人	1,136人	109.2%		
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際地域学部	171人 (100%)	5人 (2.9%)	160人 (93.6%)	6人 (3.5%)
人間生活学部	83人 (100%)	3人 (3.6%)	77人 (92.8%)	3人 (3.6%)
合計	254人 (100%)	8人 (3.2%)	237人 (93.3%)	9人 (3.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (株)北越銀行、新潟市(保育士)、(株)ブルボン				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
国際地域学部	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
人間生活学部	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業科目について、授業の概要、到達目標、方法及び成績評価の方法についてシラバスを作成し、ホームページにおいて公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 授業科目を履修した者に対して、シラバスに記載した担当教員の授業方針・評価方法により、平素の学修状況、試験、レポート、発表、討議により、目標達成率を評価する。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際地域学部	国際地域学科	128 単位	有・無	52 単位
人間生活学部	子ども学科	128 単位	有・無	52 単位
	健康栄養学科	128 単位	有・無	52 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：学生便覧 P 103 学修指導への活用		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		教員養成の状況 公表方法： https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/teacher-training/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.unii.ac.jp/college-life/campus-map/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
国際地域学部	国際地域学科	535,800 円	564,000 円 新潟県の住民 282,000 円	円	
人間生活学部	子ども学科	535,800 円	564,000 円 新潟県の住民 282,000 円	円	
	健康栄養学科	535,800 円	564,000 円 新潟県の住民 282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) アドバイザー制度を採用し、面談による履修方法、履修科目選択について指導を受けられる体制を整備している。 https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/student-support/
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) アドバイザー教員による相談のほか、キャリア支援センタースタッフによる相談体制を整備している。 ・インターンシップの実施 ・就職講座の開催 ・就職活動支援のための環境整備 ・企業ファイルの作成等 https://www.unii.ac.jp/career-center/outline/

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健室や学校医による健康相談のほか、カウンセラー（臨床心理士）による相談室を設置し、身体や心の健康に関するアドバイスをを行っている。

<https://www.unii.ac.jp/overview/educational-information/student-support/>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.unii.ac.jp/news/category/activity/>